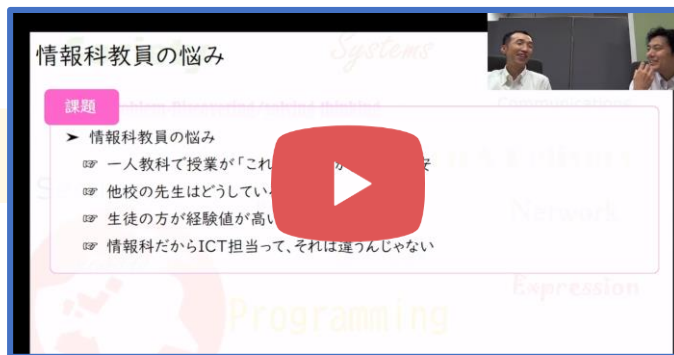


「情報Ⅰ」で大切にしてほしいこと ～よりよい学びに向けた教員としての視点～



O-13 発表用動画



協議動画

和歌山県 肥田 真幸
和歌山県 長井 映雄

生徒も先生も協議が重要
👉 コミュニティづくりを

いよいよ『情報Ⅰ』がスタートした

Technology

目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 効果的なコミュニケーションの実現, コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに, 情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。
- (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え, 問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに, 情報社会に主体的に参画する態度を養う。

担当教員の指導力等について

Technology

課題

- 学習内容が新しくなり、充実したことで内容を教えられないのではないかと
☞ これまで他教科専科の教員に頼ってきた事実
☞ 教科横断型という要素も強く持つ「情報科」の学び
- 専門的な教員の確保の課題
☞ 都市でない地域のもつ課題
☞ 「専門」と言えど、多様な専門分野
☞ 専門性を磨く機会。

自己研鑽と
コミュニティ

大学入学共通テストへの導入について

Technology

課題

- 大学入学共通テストへの出題科目として決定
 - ☞ 入試対策に終始すべきではないが、現状ではそれも避けては通れない（補習）
 - ☞ やはり「本来」を忘れてはならない
- 今後どうなるか
 - ☞ 授業の変化はマスト（個別最適な学び、協働的な学び）
 - ☞ ICTの活用を見直す = 授業のデザインを見直す（リデザイン → リビルド）

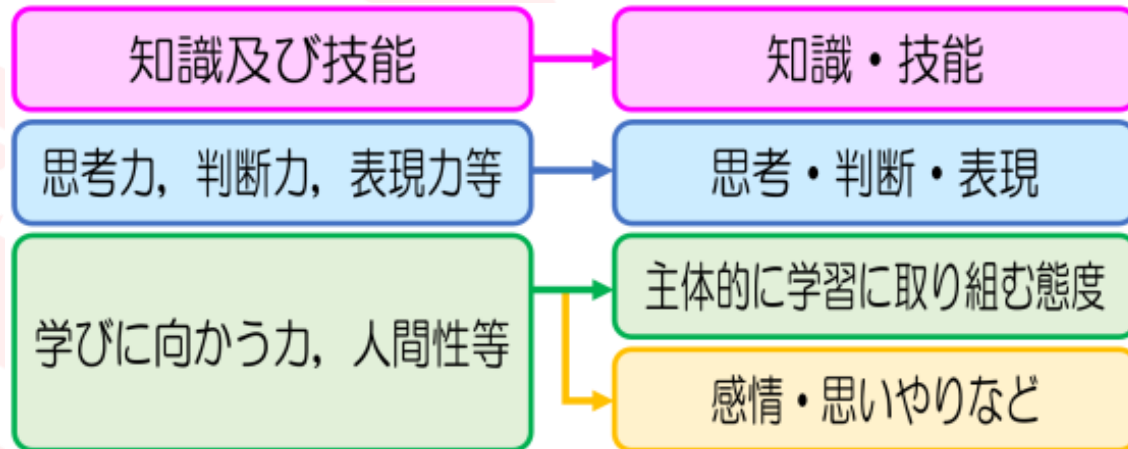
情報科で学ぶべきことを押さえた、
入試対策のためのみ
とならない授業の工夫が重要

観点別学習状況の評価と授業改善

Technology

課題

- 先生方の心配 「観点別学習状況の評価」の適正な実施と評価の在り方
 - ☞ 観点別学習状況の評価についての理解を深める必要性
 - ☞ これまでの慣習を見直す必要性（学校・先生だけでなく社会や生徒も）
 - ☞ 先生の役割を再確認
 - ☞ 変化の時は労力があることは確かだが、プロの目を持って変化に挑むことが重要



納得する評価
＝生徒に学習改善につながる
＝先生の授業改善につながる

“学ぶ”生徒の育成

課題

- 「教わる」 ➡ 「学ぶ」、「教える」 ➡ 「学ばせる」
 - ☞ 授業のデザインを見直す(リデザイン → リビルド)
 - ☞ 考えて理解する、自分なりに捉えて理解する
 - ☞ 先生は教えたいし、「教えない授業」はもどかしい。でも生徒は学んでいく
 - ☞ 先生の役割を再確認
 - ☞ 探究活動の中にある「学び方」

提示する課題の
工夫が重要

情報科教員の悩み

Systems

Technology

Communications

課題

➤ 情報科教員の悩み

- ☞ 一人教科で授業が「これでいいのか」という不安
- ☞ 他校の先生はどうしているの
- ☞ 生徒の方が経験値が高い
- ☞ 情報科だからICT担当って、それは違うんじゃない

コミュニティづくり
が重要！

Programming

Information Study I

今後の情報科の展望と決意

未来へ

➤ 情報科が進むべき方向はどうなる

☞ 今できることは何か

☞ 「未来」に何を据えて進むか

☞ 情報技術の発展や

新しい技術との向き合い方

☞ 問題発見・解決のために

「主体的・意識的に考える」

☞ 先生は、**情報科を創る一人**

☞ Well-Being

**今一度、教員の
ネットワークを！**

“Moonshot for Human Well-being”

(人々の幸福に向けたムーンショット型研究開発)



